

第2章 「福祉・ホースセラピーに活用されている馬」

福祉・セラピー

イベントで障がい者乗馬を普及

やまがた馬まつり

障がいの有無に関わらず参加できる

「日本一たのしい やまがた馬まつり」



活動の概要

「障がいの有無に関わらず、乗馬の楽しさを多くの人に知ってもらいたい!」「障がいを持っている方々が馬に乗ることで様々な効果が得られるんだよ、ということを多くの人に伝えたい!」「馬に乗ってみんな笑顔になってもらいたい!」

そんな思いから、山形県内の「社会福祉法人愛泉会」の職員（高橋千秋氏）を中心に、福祉施設や特別支援学校、企業等に勤める有志が核になって実行委員会を立ち上げ、平成19年から行われている馬との触れ合いイベントである。

このイベントの特長は、障がい者と健常者が分け隔てなく参加できることと、障がい者乗馬について、たくさんの人に楽しみながら知ってもらう機会を設けていることである。

愛泉会では、施設内で恒常的に障がい者乗馬を行っているが、一般の人にも「障がい者乗馬がどのようなものか」ということや、乗馬の楽しみを知ってもらうために本イベントを行っている。

そのため、イベントに参加する方の多くは一般の人である。一方、障がい者乗馬も行っていることから、障がいを持たれる方もイベントに参加しており、健常者と障がい者の垣根のないイベントとなっている。

「馬」を冠しているイベントではあるが、小動物ふれあいや、鉄道模型コーナー、飲食コーナーなども設けられ、馬だけでなく様々な楽しむことができるようになっており、馬に関わらない地元の関係者、関係団体等も参加協力しやすいイベントとなっており、地元と一体となった運営がなされている。

その中で、障がい者乗馬や馬が中心となっているため、来場者に特に意識させることなく、楽しみながら馬や障がい者乗馬、馬文化（チャグチャグ馬コ特設コーナー）等に幅広く触れ、理解する貴重な機会を提供しているところが他に類のない取り組みである。



やまがた馬まつりの広報

平成 27 年 9 月 27 日（日）に開催された「第 9 回日本一のしいやまがた馬まつり」では、来場者数は約 1 万人。多くの一般の来場者とともに障がいを持たれる方も来場していた。

体験乗馬の 1 つとして行われた障がい者乗馬セッションでは 1 セッション 30 分間、6 セッション計 12 名の利用者があった。

出展団体における飲食の販売や休憩できる芝生のスペース等もあるため、来場者は会場内で長時間過ごすことができる。馬の出し物だけではなく、絵画や鉄道模型などの展示もあることから子供たちは飽きることなく時間を過ごせるようになっている。それぞれの展示は地元の施設や鉄道会社の方の協力を得ている。



体験乗馬を楽しむ子どもたち



ポニーコーナーの様子

活動体制

「馬まつり実行委員会」が中心となって運営している。実行委員会は、福祉施設や特別支援学校、企業等に勤める有志で作られている。

県をやまがた社会貢献基金事業の活用、企業や団体等との共催、協力、協賛金で運営されている。※「やまがた社会貢献基金」は、誰もが安心して暮らせる住み良い地域社会を県民みんなで作るため、社会や地域に貢献したいという想いを県民の方や企業等からの寄付金と県の拠出金で造成しました。(HP より)

施設の概要

やまがた馬まつりは、JR 山形駅西口にある山形駅西広場（東西約 100m、南北約 125m）を会場として行われている。会場内南側に体験乗馬施設も設けられ、馬と触れ合うことのできるスペースも合わせて設けられている。

町の中心部で行っていることから、多くの来場者で賑わっていた。

背景(地域連携、展望等)

社会福祉法人 愛泉会は昭和 60 年に設立され、障がい者支援施設「向陽園」を中心に、様々な福祉サービス事業を山形市を中心に行っている。

向陽園には、障がい者乗馬施設「まいんどパーク」があり、常時馬 4 頭を飼育し様々な障がいを持つ方々の乗馬活動を行っている。また、なかなか足を運ばない方のために、出張乗馬も行っている。

.....
やまがた馬まつり公式ホームページ

(URL) <http://uma-festa.com/>

問合せ先 やまがた馬まつり実行委員会事務局